

## NHK WORLD JAPAN の大まかな要約

翻訳：横山利夫

- 一つの高山帯（大雪山系）で350種類の植物が見られるのは世界で類を見ない。
- 工藤岳氏は40年間、大雪山系の高山植物の植生を調査してきた。
- 大雪山系の生態系（高山植物や動物）は温暖化によって、劇的に変化している。チシマノキンバイやエゾノハクサンイチゲがなくなった原因は温暖化にある。
- 大雪山系では、45年間で1.4度気温が上昇した。彼は5年ごとに、同じ場所の植生を観察した結果、「イネ科の植物が増えている。これは雪解けが速くなり（2週間くらい）、土壌が乾燥することと関係している。」
- 金子正美氏も「気候変動の影響は、まず、一番脆弱なところ（高山帯や湿原）に現れる」と言う。
- 工藤氏は、また、「高山植物とマルハナバチの活動時期は密接な関係がある。花の咲く時期とハチの活動時期が重なると効果的に花粉を散布できるが、温暖化によって、花の開花が早くなり、ハチが活発に行動する時期がズレてしまっている。高山植物の減少の原因になる。ニホンナキウサギやウスバキチョウ（大雪山系にだけ生息）は高山植物を食べて生きている。高山植物が減ると、高山植物、昆虫、動物の生態系のバランスが大きく変わる。」
- 高山の生態系の保全は、人間が手を加えないのが良い、と従来言われてきたが、何らかの人為的な方法を加えながら生態系を維持していかなければならない。
- <https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/shows/6128034/>